

成果及び未来への展望

2018年6月の「台北『昭和町』の日」は、初めての試みではありましたが、おかげ様で嬉しい反響をいただきました。

- ・湾生とそこご家族及び関係者（15名）がイベントに参加してくださり、里帰りが実現しました。
- ・青田街・温州街において日本家屋を修復・再生した経営者や住民の方々の参加と協力も得られました。
- ・それぞれの日本家屋で古写真展や文献史料、書画、特別企画などの展示も好評をいただきました。
- ・日台メディアの報道により、一連の活動を双方の市民へ広く伝えることができました。
- ・イベントに参加していただいた台湾の方々からも、「来年も参加したい」との声が届いています。

さらに、「昭和町の日」の開催を契機に、「故郷資料館」の設立を目指し、台北昭和町会をはじめ五つの湾生団体より日本の対台湾窓口機関である日本台湾交流協会に請願書を提出しました。「故郷資料館」とは、台湾を故郷と思う方々の記憶や資料を保存し、後世に伝えて行くための拠点にしていきたいと考えています。道遠しの目標ですが、第一歩を踏み出しました。

こういった成果を得られたのは、台北「昭和町」の会を発足した時に掲げた理念とも一致し、改めてご協力を頂いた皆様に厚く御礼を申し上げます。

昨年の結果を受け、管轄行政機関である大安区役所と地元の龍安小学校（旧錦尋常小学校、臺北市昭和國民學校）と共催という形で、2回目の「台北昭和町の日」の開催が決まりました。

具体的には、市民向けの「昭和町」見学ツアーを4月と5月に計4回実施し、大安森林公園内の屋外ステージにて、6月1日（土曜日）の午後に、歓迎会を行います。市民団体によるパフォーマンスの他に、大安戸政事務所のご厚意により、事前に申請していただいた湾生の方に台湾時代の戸籍謄本を作成し、贈呈致します。

また、龍安小学校が2019年に創立九十周年を迎えるのに合わせて、お祝いの行事の一部として、イベントにもご協力いただけることになりました。6月1日の歓迎会でのステージ出演や、写真・資料史料展示、母校訪問イベントを予定しています。

今後、活動の拡大を目指すにあたり、地元組織を充実させる必要があると考えております。また、この地域でまだ文化資産となっていない日本家屋の保存運動を続けるため、社団法人の設立に向けて準備を進めてまいりました。昨年末に審査を通過し、今春、政府から立案許可が下りる見込みです。

社団法人の名称は「社団法人台湾故郷文史協会」（Taiwan Homeland Association）として、今後の活動をより本格的化していけると期待しています。